

打越遺跡 第48-3地点

遺跡名	打越遺跡
よみがな	おっこしいせき
調査地点	第48-3地点
主な時代	縄文時代前期（約6,700～6,500年前）
調査地	東みずほ台4丁目30-62、30-63
調査面積	135㎡のうち、約28㎡
調査期間	令和5年6月30日～7月6日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代竪穴住居跡1軒、縄文時代土坑2基</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文時代の土器、石器</p> <p>【概要】</p> <p>現在のみずほ台小学校の周囲に広がる打越遺跡では、旧石器時代から戦国時代に至るまで、様々な時代の人々が生活していた痕跡が見つかっており、中でも縄文時代早期後葉から前期前葉の集落跡は、関東でも屈指の規模と言えます。今回の調査地点は、打越遺跡第48地点として令和4年度に試掘調査を行った範囲の一部でした。</p> <p>確認された竪穴住居跡は、今回の調査範囲で確認できたのは全体の3分の1程です。縄文時代前期の「関山式土器」が流行していた時期のものです。住居の床面には、火を焚いた痕跡が2カ所確認されましたが、一般的な炉の位置からは外れていました。メインの調理施設というよりも、手元の明かりや暖を得るためなど、補助的な役割で火を焚いた痕跡のように思われます。</p>



完掘された竪穴住居跡



調査の様子



住居跡から出土した「関山式土器」の破片



出土した磨製石器（石皿）と、住居床面の被熱部分